

西村朗、渾身の新作オペラ！ 世界初演！

インド大叙事詩『マハーバーラタ』による室内オペラ

バガヴァット・ギター

〈神の歌〉

演奏会形式

一般財団法人
知と文明のフォーラム
2013年委嘱作品

作曲

西村 朗

台本

北沢方邦

指揮

板倉康明

ピアノ

加賀ひとみ

バリトン

松平 敬

打楽器

上野信一

&

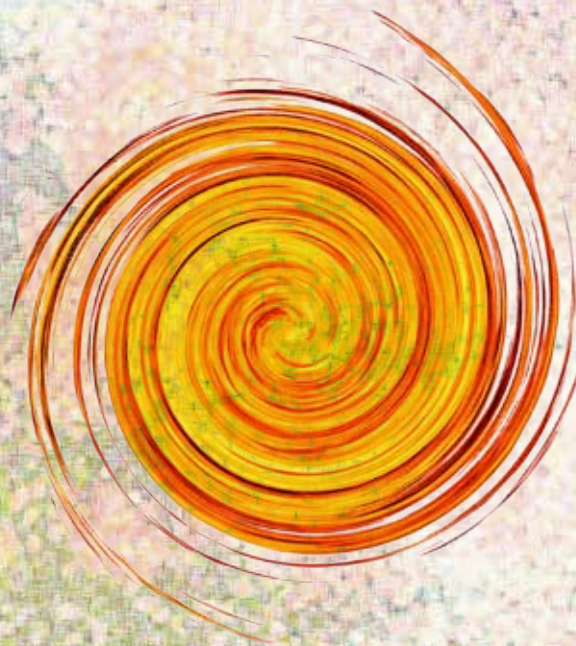
フォニックス・レフレクション

舞台監督

中村真理

照明

望月太介



お問合せ・チケット取り扱い

東京コンサーツ

03-3226-9755

<http://www.tokyo-concerts.co.jp>

チケット取り扱い

サントリーホールチケットセンター

0570-55-0017

<http://suntory.jp/HALL/>

チケットぴあ

05670-02-9999

<http://t.pia.jp/>

[Pコード 201-867]

東京文化会館チケットサービス

03-5685-0650

<http://www.t-bunka.jp>

2013年11月23日(土・祝)

17時開演(16時30分開場)

サントリーホール
ブルーローズ(小ホール)

入場料(全席自由)

一般5,000円/学生2,000円

主催

一般財団法人知と文明のフォーラム

協賛

株式会社ヤマハミュージックジャパン

後援

株式会社ヤマハミュージッククリエティング

ブルーマレット株式会社

制作協力

株式会社東京コンサーツ

「われ、世界を滅亡に導く大いなる死、大いなる時なり。 諸世界を打ち砕くためにここに来たれり！」

破滅に向かって突き進むこの現代世界に、はたして救いはあるのか？

『バガヴァッド・ギーター』とはなにか 北沢方邦

音楽の天才ベートーヴェンと物理学の天才アインシュタインの共通の愛読書はなにか？ このクイズの答が皆さんにはおわかりだろうか？ それはインドの古典『バガヴァッド・ギーター』である。もっともベートーヴェンの時代ドイツ語全訳はまだなく、インド哲学の本のなかの引用文にいたく感銘して彼は、『日記』にその一部を書き写したのだが。

彼らの心を射止めたのはなにか？ それはずべてを貫く時間の矢に添って出現する宇宙の法（ブラフマン）、つまり宇宙を導く法則が世界を支配していること、したがっ

て人間の生き方も、この法に沿うものでなければならぬという主張である。合衆国ニューメキシコ州の白い砂漠で行われた世界最初の核爆弾の実験時、目もくらむ閃光と爆発の衝撃のなかで、開発者のひとりオッペンハイマーは、『バガヴァッド・ギーター』の予言的な一節を思い起こし、戦慄した。神クリシュナの恐ろしい宣言「われ、世界を滅亡に導く大いなる死、大いなる時なり、諸世界を打ち砕くためにここに来たれり！」

インド・ヨーロッパ語では、「時間」という語は同時に「死」という意味を内包する。時は人間にかぎらず、万物の死を導くが、逆にその法則を自覚したとき、はじめてひとも社会も究極の解放と永遠の平和を手に

することが許される。核開発はこの宇宙の法への反逆である。なぜならそれは、本来人間の手を越えた死と滅亡の力やエネルギーによって現世の繁栄をもたらそうという、宇宙の法に逆行する発想と行為だからである。

ヒロシマ・ナガサキより六十六年、東日本大震災にともなうフクシマ原発の重大事故は、このクリシュナの恐ろしいことばをふたたび想起させた。われわれの室内オペラ『バガヴァッド・ギーター』は、大叙事詩『マハーバーラタ』のこの珠玉の巻『バガヴァッド・ギーター』を音楽の力によって現代によみがえらせ、その真理の声を世界にひびかせようとするものである。

作者プロフィール

西村 朗 (にしむら あきら) 作曲

東京藝術大学卒業、同大学院修了。現代日本の作曲界を牽引する作曲家。エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞やルイジ・ダルツラピッコラ作曲賞を受賞するなど、海外でも高い評価を得ている。近年の受賞は、エクソンモービル音楽賞(2001年)、第3回別宮賞(02年)、第36回サントリー音楽賞(04年)、第47回毎日芸術賞(05年)、第59回尾高賞(11年)等。02年度芸術祭大賞に『アルディッティSQプレイズ西村朗(西村朗作品集5)』が、05年度芸術祭優秀賞に『メタモルフォーシス・西村朗室内交響曲』が選ばれる。10年草津夏期国際音楽フェスティバルの音楽監督に就任。東京音楽大学教授。◎東京オペラシティ/撮影大窪道治

北沢方邦 (きたざわ まさくに) 台本

桐朋学園大学教授、信州大学教授、神戸芸術工科大学・同大学院教授を経て、現在信州大学名誉教授。音楽社会学の著書に『メタファーとしての音』(新芸術社)、『北沢方邦 音楽入門』(平凡社)など。科学認識論関係の著書に『知と宇宙の波動』(平凡社)、『近代科学の終焉』(藤原書店)など。構造人類学関係の著書に『天と海からの使信』(朝日出版社)、『日本神話のコスモロジー』、『歳時記のコスモロジー』、『古事記の宇宙論』(いずれも平凡社)、『感性としての日本思想』(藤原書店)など。翻訳書に『失われた歴史』(M・H・モーガン著、平凡社)など。

出演者プロフィール

板倉康明 (いたくら やすあき) 指揮

東京藝術大学を経てパリ市立音楽院、パリ音楽院を卒業。クラリネット奏者として東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。1996年西村朗作品により指揮デビュー。以後、現代作品を中心に、活発な指揮活動を行っている。◎Marc Rouve

加賀ひとみ (かが ひとみ) メゾソプラノ

東京藝術大学声楽科卒業、同大学大学院オペラ専攻修了。新国立劇場公演『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル役をはじめとして、『カルメン』、『コジ・ファン・トゥッテ』、『魔笛』、『椿姫』、『カヴァレリア・ルスティカーナ』など出演は数多い。二期会会員。

松平 敬 (まつだいら たかし) バリトン

東京藝術大学卒業、同大学院修了。前衛作品、無伴奏独唱曲のみでのコンサートなどが話題となる。2010年、全曲ソロの多重録音によるCD『MONO=POLI』を発売し、平成22年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を受賞。聖徳大学、文教大学講師。◎石塚潤一

上野信一 (うえの しんいち) マルチパーカッション

国立音楽大学を首席卒業。現代音楽の演奏家として国内外で積極的に活動、新作初演は50曲以上。後進の指導にも情熱をそそぎ、門下生に国内・国際コンクール入賞者多数。上野信一&フォニックス・レフレクションおよびアンサンブル・ムジカ・ヴィヴァンテ主宰。

上野信一&フォニックス・レフレクション

上野信一を中心に、国内外で活躍するソリストたちにより1987年に結成されたパーカッショングループ。幅広いレパートリーを誇り、その音楽性は高く評価されている。

西村 朗

北沢方邦

板倉康明

加賀ひとみ

松平 敬

上野信一



サントリーホール 交通のご案内

電車
東京メトロ南北線
六本木1丁目駅 3番出口より
徒歩5分
東京メトロ銀座線 / 南北線
溜池山王駅 13番出口より
徒歩10分

バス
都営01系統バス(渋谷～新橋)
「赤坂アークヒルズ前」下車